

* 知的障害の教科別の学習指導案は、授業づくりハンドブック 10 ページ（よりよい授業づくりのために）の項で挙げている学習指導案の基本的な留意点に沿った記述になります。

第〇〇部 第〇学年〇組 〇〇科 学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時 〇〇教室

指導者：〇〇（T1）、〇〇（T2）、〇〇（T3）

1 単元（題材）名

2 単元（題材）設定の理由

(1) 児童（生徒）観

- ◆ 単元（題材）にかかわる児童生徒の実態について書く。こういう実態だからこういうことを課題に考えているというように、集団の実態と課題を整理して書く。
- ◆ また、障害名や検査等の数値、発達段階等をそのまま記述するのではなく、そのことが示す具体的な状態を書く。
- ◆ 学習指導要領の各教科で示されている内容ごとに、児童生徒がどの段階で、何が課題となっているのかを具体的に表記する。

(2) 単元（題材）観

- ◆ 単元（題材）を学習する意義（なぜこれを取り上げたのか）や価値、単元（題材）を通して児童生徒に望む姿や付けたい力を書く。
- ◆ 児童生徒の実態によっては、当該学部段階より上学部、下学部の指導内容を扱うことができる。その場合、児童生徒の実態と指導内容との関連を明確にしておく必要がある。
- ◆ 単元観に「～することで～、できると考える」と記述すると、指導観と混同した書きぶりになってしまう。単元観と指導観に書く内容を整理し、単元観には目指す資質・能力や既習学習等を書くようにするとよい。

(3) 指導観

- ◆ この単元（題材）の目標達成に向けて、どのような指導上の工夫や障害等を考慮した支援を行うか、教師の願いや意図を具体的に書くとよい。
- ◆ 必要に応じて、キャリア教育の視点から、この単元（題材）で身に付けた力がどのように児童生徒の将来像につながっていくかを書くことよい。

3 単元（題材）目標

- ◆ 学習指導要領に記載してある段階の目標を踏まえて、三つの柱（知識及び技能／思考力、判断力、表現力等／学びに向かう力、人間性等）に分けて記述する場合や、単元や児童生徒の実態によっては目指す姿を想定すると分けずに目標を設定するほうがよい場合がある。
- ◆ 実態差のある集団であっても、段階別に分けて記述するのではなく、全員に対応するものを書くようにする。
- ◆ 教科によっては学習内容が複数に渡るものがあるが、その単元（題材）で付けたい力を考え、目標は中心となる学習内容に絞って設定してもよい。複数の学習内容を同じ比重で並列的に扱っている場合には、その単元（題材）全体を通して付けたい力を三つの柱で整理して書くようにするとよい。

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
例：～している。	例；～している。	例：～しようとしている。

* 各教科の評価規準に関しては、文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」「特別支援学校高等部学習評価参考資料」を参考にして適切に設定する。

5 単元（指導）計画と評価の計画（全○時間）

次	時	主な学習活動	観点の評価		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一	1				
二	1				
	2				
三	1				

- ◆ 主な学習活動については、内容を具体的に記入する。例えば、一次1時「学校を探検しよう①」二次1時「学校を探検しよう②」等にならないよう、その時間に何をすることが分かるように表記するとよい。また、主な学習活用のねらい入れるとより分かりやすい。
- ◆ 評価の観点については、「授業づくりハンドブック」の18ページからを参考にして、重点を絞って印を付けるとよい。

6 児童（生徒）の単元（題材）に関する個別の実態・目標

児童（生徒）名	単元（題材）に関する実態	単元（題材）に関わる個別目標

- ◆ 「3 単元（題材）目標」との整合性がとれるよう設定する。
- ◆ 三つの柱で整理した実態の中に、個々の児童生徒が既習事項によってどのような力が付いているかを明確に書いておくと、目標とのつながりが分かりやすい。

7 本時案（第○次 第○時）

目標	全体					
	個別	A	B	C	D	E
学習活動		教師の指導・支援及び配慮事項				
1						
2		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 特別支援学校の授業は、個々の児童生徒の実態と課題を丁寧に捉え、個々の児童生徒に応じた目標を設定することが基本である。 ◆ 体育、音楽、図工・美術等、大集団で指導をする場合、課題の似通った児童生徒をグループ化し、同一目標を表記していることがあるが、あくまでも共通項としての目標である。支援等を表記していく場合は、個々の実態や課題に対応した視点で丁寧に表記することが必要である。実態や特性の違いに対して、同一支援では目標達成には至らない。 ◆ 大集団で授業する場合、参観の視点に合わせて対象児童生徒を絞って記述することも考えられる。絞り方としては様々あるが、「授業全体を見通せるように、実態差のある児童生徒を抽出して取り上げる」「全体の中で活動を同じくする1グループを取り上げる」など、参観者に何を希望しているのかを明確にし、意図をもって対象児童生徒を決めるとよい。 ◆ 教師間の連携のあり方を参観の視点としたい場合、どの教師がどの支援をするのかを書いた文章の後にかっこ付きで、（T2）（T3）のように書き加えておいてもよい。 ◆ 手立ては教師を主語として記述する。例えば、「○○できるように△△する。」 				

8 教室配置図

- ◆ 個々の児童生徒の目標を達成するために、またはそのための支援を教師が行うために、授業で使用する道具や材料の配置、児童生徒の活動場所や教師の立ち位置、動線などを考え、計画することが必要である。その計画した内容を図示する。